

## INTRODUCTION

# はじめに

差別とは何でしょうか？ここでは差別を世界人権宣言に基づいて、①ある社会的グループに対する、②不平等と定義します。このシリーズのテーマは、人種や民族に関連づけられたグループへの不平等、つまり人種差別です。

人種差別は第二次世界大戦後に、世界人権宣言や人種差別撤廃条約で禁止され、世界中の人々が団結して撲滅することを約束しました。二度の世界大戦によって、人種差別を放置すると植民地支配や人種隔離、ホロコースト(ユダヤ人虐殺)など、とりかえしのつかない社会破壊を招くということを学んだからです。

日本は人種差別撤廃条約に加入していますが、条約が義務づけているはずの法律による人種差別の禁止をしていません。そのため日本の人種差別はどんどんエスカレートしています。

人種差別の被害は決してマイノリティ(少数者)だけにとどまりません。人種差別は社会そのものを破壊しますから、人種差別を止めることは、マイノリティを守るだけでなく、あなた自身を守り、社会を守ることなのです。私たちの社会が成立しているのは、世界各地で人種差別とたたかい続けている人々がいるからです。

このシリーズは、多くの人種差別の中から身近であるもの、学校の授業と関連しているものを中心に取り上げました。最初にテーマに関する人物やできごとをストーリーとして紹介し、その後には差別の実情や背景、歴史などをくわしく解説しています。特集として解説のみのテーマもあります。第3巻は日本の人種差別をとりあげました。ただし人種差別のすべてを紹介することはできません。編著者がみなさんにぜひとも知ってもらいたいものを選んで、取り上げることにしました。

## CONTENTS

# もくじ

はじめに	02
私はヘイトスピーチとたたかう	04
絶対に止めるべきヘイトスピーチ	06
入管施設で亡くなったスリランカ女性	10
外国から日本に来た人たちへの差別	12
COLUMN01 日本の難民問題	13
差別をなくすためには	16
「ハーフ」の私が撮った「ハーフ」の映画	18
「ガイジン」と呼ばないで!	20
COLUMN02 オコエ瑠偉選手の投稿	21
機動隊が県民に対して「土人」と発言	24
基地反対の声を無視され差別される沖縄	26
COLUMN03 沖縄のアメリカ兵による性暴力	29
テレビ番組での差別発言	30
アイヌ民族が受けてきた差別	32
住んでいる場所や出身で差別されるの?	36
マジョリティにも向けられる差別	38
索引・写真提供・参考文献	39

# 私はヘイトスピーチと たたかう

わたし  
私は李信恵、1971年に大阪府東大阪市に生まれた在日朝鮮人です。私たちのように朝鮮半島にルーツを持つ人は「在日コリアン」とも呼ばれますが、私は「在日朝鮮人」と名乗っています。「朝鮮」には「朝が鮮やかで美しい国」という意味があって、それがとても気に入っているからです。でも日本では、朝鮮人という言葉が差別的な意味で使われることがあります。朝鮮人差別がなくなるまで在日朝鮮人と名乗っていきたいと思います。



わたし  
私は2014年8月、差別的な発言で名誉を傷つけられたとして、損害賠償を求める訴訟を起こしました。うったえた相手は「在特会(在日特権を許さない市民の会)」\*とその会長、まとめサイトの「保守速報」です。在特会とその会長は、インターネット上や路上で私の見た目をばかにし、「日本から出て行け」などひどい言葉を叫び続けました。「保守速報」は私の写真を掲載し、外見についてからかい、「朝鮮人を排除しよう」などと書きこんでいました。

こういう行動は「ヘイトスピーチ」と呼ばれるもので、子どもや女性など立場が弱い人ほ

こうげき たいしやう わたし だんせい  
ど攻撃の対象になりやすいです。私も男性なら決してされないような差別的な言葉を浴びました。

さいばん しやうこしりやう わたし  
裁判で使う証拠資料を作るために、私に対するヘイトスピーチの動画やネットの書きこみをあらためて見てみると、吐くほど気持ちが悪くなり、夜も眠れない状況が続きました。それでも裁判を続けようと思ったのは、若い人の多くがインターネットで情報を得ているからです。まとめサイトには差別をあおるようなデマがあふれています。マイノリティの子どもたちがそれを見たらどう感じるでしょうか。そうではない子どもたちも、差別に対する抵抗感が薄くなってしまいかもかもしれません。

公園にガラスの破片が落ちていたら、大人は子どもに危険がないようにそれを拾います。私はヘイトスピーチというガラスの破片を拾い、子どもたちを被害者にも、加害者にもしないためにたたかうことにしたのです。

さいばん  
この裁判は、2017年11月に「人種差別と女性差別の複合差別にあたる」と認めた判決が確定しました。この判決が、私たちの生活と尊厳が守られるための第一歩になればいいなと思っています。



ざいとくかい  
\* 在特会 (在日特権を許さない市民の会) とは  
2006年から「反日的」とみなした個人や団体にヘイトスピーチデモを開催している団体。



ヘイトスピーチってなんだろう。ヘイトスピーチをなくすためにはどうすればいいんだろう。

# 入管施設で亡くなった スリランカ女性

2021年3月6日、名古屋出入国在留管理局(名古屋入管)の施設で、スリランカ出身の女性、ラトナヤケ・リヤナゲ・ウイシュマ・サンダマリさんが亡くなりました。33歳でした。ウイシュマさんは2017年に留学生として来日。語学学校の先生を目指して日本語学校に通っていました。しかし、理由は不明ですが学校に行かなくなり、退学になりました。そのため日本に住むための「在留資格」を失って、

2020年8月に施設に収容されたのです。収容所に入ってから5か月後の1月中旬から吐くなど体調不良をうったえ、2月になってやっと病院で診察を受けることができました。しかし医師が「異常がないので点滴や入院の必要はない」としたので、入管職員はウイシュマさんをそのまま連れて帰りました。ウイシュマさんの容態はどんどん悪化し、立ち上がれないほど衰弱して亡くなってしまいました。



5月、遺族が来日し、名古屋入管にウイシュマさんが亡くなった真相について知りたいたうたえました。しかし名古屋入管は説明をしなかったため、遺族は法務大臣に会って、収容施設での様子を記録した映像を見せてほしいと求めましたが、拒否されてしまいます。

8月にやっと映像を見せてくれることになりましたが、2週間分の映像を約2時間に編集したものでした。そこには、ベッドから落ちたウイ

シュマさんがインターフォンで何度も助けを求めているのに、なかなか対応してもらえず床の上にそのまま寝かされていた姿や、吐いてしまうのに食べものを口に入れられている様子が映っていました。映像を見たウイシュマさんの妹は涙が止まらず、思わず吐いてしまったそうです。

## 名古屋 スリランカ女性死亡



生前のウイシュマ・サンダマリさん＝遺族提供

### 入管報告診療記録

名古屋出入国在留管理局(名古屋市)に収容されていたスリランカ女性、ウイシュマ・サンダマリさん(当時33歳)が3月6日に死した問題で、毎日新聞は9月5日に外部病院で受けた胃の内視鏡(胃カメラ)の診療記録を関係者から入手した。診療記録には、「薬を内服できないので点滴、入院」と指示が書かれていた。しかし、法務省・出入国在留管理庁が作成した中間報告には「医師から点滴や入院の指示がなされたこともなかった」と反対の内容が書かれている。医師が書いた記録と入管の報告が食い違う事態になった。

【和田浩明、上東麻子】

毎日新聞が入手したのはウイシュマさんが亡くなる1か月前に、外部病院で受けた胃カメラの画像を含む検査報告書、診療情報。中間報告書(4月9日公表)によると、ウイシュマさんは2020年8月に名古屋入管の収容施設に収容された。今年1月中旬から嘔吐や食欲不振、体重減少、体のしびれなどを訴え始めた。入管側は「容態観察」のため監視カメラ付きの単独室に移した。1月下旬からは1日に何度も嘔吐を繰り返していた。2月4日には収容施設内の内科

医が診察し、外部病院での診察を指示した。入所後4カ月で体重が12kg減った。2月5日、ウイシュマさんは名古屋市内の病院で消化器内科の内視鏡検査を受けた。毎日新聞

スリランカ女性死亡した名古屋出入国在留管理局「名古屋港区3月、川瀬慎一朗撮影」



名古屋入管がウイシュマさんにひどい態度をとったのはなぜだろう。出入国在留管理局とはどんなところかも見てみよう。